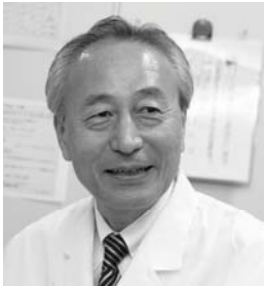

序　文

京都医療センターのアニュアルレポート平成28年度版をお届けいたします。私が着任したのが平成28年4月1日ですので、これが院長として本院の成績を報告する第一歩となります。この1年間、地域のみなさまの深い信頼を得て、多数の患者さんが本院を受診し、外来および病棟にて診断・治療・ケアを受けられました。また全職員が力を合わせて、みなさまの信頼に応えるべく頑張ってきております。また伏見区を中心に、さまざまの医療機関から多数の患者さんをご紹介いただき、その数は増加の一途を辿っておりますし、また本院から逆紹介する患者さんも順調に増加いたしております。

しかしながら、病院経営という面では、昨年度は大幅なマイナスを計上することとなりました。これは偏に私の不徳のいたすところであります。政府の医療費抑制政策の影響を受けて、急性期病院の経営は非常に困難なものとなり、収支の急激な悪化は本院に限るものではありません。さらに本院では、平成27年度からの産婦人科の助産制度取り扱い停止の影響、腫瘍内科および救命救急センターのスタッフ交代・減少の影響が加わったものと思われます。しかし、これらの問題に対しては、全職員が真摯に対応した結果、危機からの脱却が見えてきており、各々の診療科の実績も順調に回復いたしております。また病院全体としては、高度ないし緊急の診療を要する患者さんが多数紹介され、質の高い集中的な治療を受けて、短期間で退院されるという典型的な高度急性期病院へと変貌してきております。

平成29年度の本院の目標を「地域のニーズに応えて高度・急性期の医療を推進します」としました。地域のみなさまの信頼に応えて、診療の質をさらに向上させていきたいと決意を新たにしています。幸いなことに、各診療科・診療部ともに最高レベルの能力をもつスタッフが揃っています。また地域の医療機関との連携もきわめて密なものとなっており、政府の目指す「地域医療構想」のお手本になりそうです。「地域医療構想」で各医療機関がそれぞれに分化していくなかで、本院は高度急性期を扱う最も重要な基幹病院としてその価値をさらに高めていきたいと存じます。それであっても、私自身は、本院はできるだけ敷居の低い病院でありたい、地域のみなさまが気軽に集い、憩える場でもありたいと念願いたしております。

今後も、みなさまの暖かなご支援をよろしくお願いいたします。

院長　小西　郁生